経営ビジョン2030

九電グループは、今後も事業活動を通じて、基盤である九州の持続的発展に貢献し、地域・社会とともに将来にわたって成長していくために、長期的な経営の方向性として、2019年6月に「九電グループ経営ビジョン2030」を策定しました。

本経営ビジョンでは、「2030年のありたい姿」とその実現に向けた3つの戦略を定めるとともに、経営目標を設定しています。

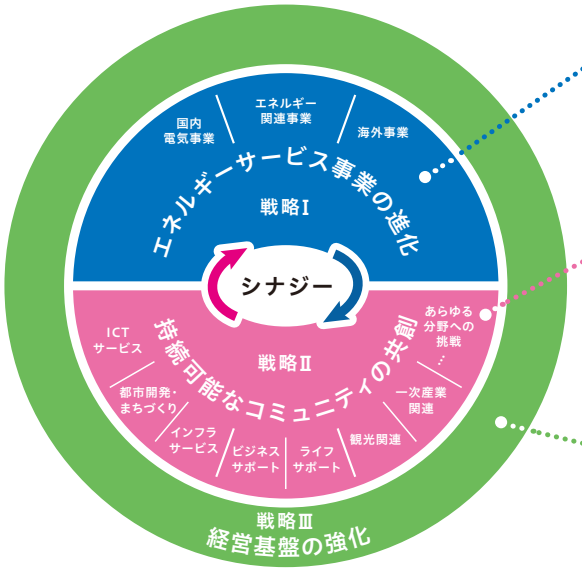
本経営ビジョンのもと、グループ一体となって様々な取組みを進めることにより、地域・社会とともに持続的な成長を目指すと同時に、ステークホルダーの皆さまへの価値提供を果たしていきます。

2030年のありたい姿

九州から未来を創る九電グループ

～豊かさと快適さで、お客さまの一番に～

ありたい姿実現に向けた3つの戦略



戦略Ⅰ
エネルギーサービス事業の進化

低炭素で持続可能な社会の実現に挑戦し、より豊かで、より快適な生活をお届けします。

戦略Ⅱ
持続可能なコミュニティの共創

九州各県の地場企業として、新たな事業・サービスによる市場の創出を通じて、地域・社会とともに発展していきます。

戦略Ⅲ
経営基盤の強化

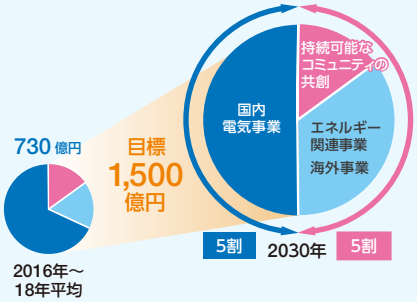
経営を支える基盤の強化を図り、九電グループ一体となって挑戦し、成長し続けます。

「2030年のありたい姿」実現に向けた経営目標

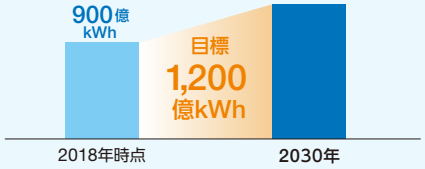
経営ビジョン実現に向けた戦略の着実な推進に向け、2030年のありたい姿「九州から未来を創る九電グループ～豊かさと快適さで、お客さまの一番に～」につながる経営目標を設定

経営目標

連結経常利益 1,500億円
（国内電気事業5割、その他事業5割）



総販売電力量 1,200億kWh
（小売、卸売、海外）



トップレベルの
電気料金の永続的な追求

経営目標（環境目標）

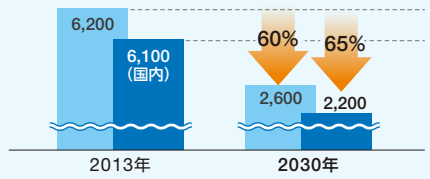
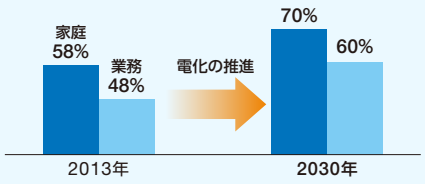
供給側：電源の低脱炭素化

サプライチェーンGHG排出量を
60%削減（2013年度比）
国内事業は65%削減（2013年度比）

需要側：電化の推進

九州の電化率向上に貢献
（家庭部門：70%・業務部門：60%）

GHG排出量
（万トン）



九州の電化率